

# 平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立みつば幼稚園 )

## 1 平成26年度 重点評価項目

1. 遊びの充実と学び(幼稚園での学び) 2. 豊かな心の育成(感動体験と自己発揮) 3. 健やかな体の育成(生活習慣の確立と健康な体づくり)

## 2 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理		自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成27年3月6日		評価日	平成27年3月19日	
						評価者・組織	評価委員会		評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
1 確かな学力	言語活動	月刊絵本と絵本室の活用	・ 絵本室の環境と絵本貸し出し ・ 月刊絵本を親子で楽しんでい	AB評価は80%以上	⇒	月刊絵本・絵本室の活用は家庭での親子の触れ合いにもつながっている。引き続き、絵本室の環境を整える。	絵本室の活用は、絵本ボランティアの協力が大きい。幼稚園の教員ではない大人とのかかわりや読み聞かせなど、絵本室のひとときが子どもにとって有意義な時間になっている。次年度は、元の位置に絵本室が移動する。環境を考えたい。	⇒	今年度は、絵本ボランティアの幅が広がり参加人数が増えた。絵本室がより子どもにとって身近になるよう、次年度のボランティアの募集に向けても早い時期から動いた方が良い。	PTAが中心となり、在園児の保護者に、絵本ボランティアの方たちの仕事内容や、子どもたちにかかるわっている様子などを知ってもらうように、見学会を設ける。
	豊かな経験や体験	子どもが主体的に遊ぶ環境づくり	・子どもが心を動かし様々な発見ができる環境 ・子ども一人一人の援助	豊かな体験や経験は前期よりB評価が減りA評価が上がった。他の項目では○評価もある。		幼稚園で自ら遊ぶ姿に気付きや発見があることに評価をいたしている。				
2 豊かな心	豊かな感動体験	造形活動や伝統文化に心を動かす経験	・美しさや、心地よい響きに触れる生活 ・子ども一人一人の援助	伝統文化行事のかかわりは、ごくわずかが評価が下がった。	⇒	前期に引き続き、様々な感情体験をすることが心の育ちにつながると保護者が考えている結果が出た。子ども一人一人の気持ちに寄り添い、幼児理解に努めたい。	幼稚園の行事の中での子どもの育ちを丁寧に見取り、次の生活にステップアップするよう環境を整えていく。また、教師の言葉だけが心を動かすものである。研修を積んでいきたい。	⇒	伝統文化へのかかわりは地域行事としても行っている。夏祭り、餅つき、1月のお茶会の体験(5歳児)などがある。親子で参加してほしい。	夏祭り(地域行事)や餅つき(園行事)等の行事は、地域と幼稚園のつながりが続いている。保護者や子どもたちにとって楽しい場所になるよう今後も学校運営協議会と一緒に取り組んでいきたい。
	自己発揮と他者への理解	個々の心の読み取り 身近な人への挨拶	・子ども良いところを認め、励まし・身近な人と挨拶を交わしかかわる。	個々の心の読み取りは、ごくわずかにA評価が下がった。挨拶は良い評価						
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ	規則正しい生活ができるか	BC評価が減り、A評価が増えた。	⇒	BC評価が減りA評価が増えた。家庭や園での生活習慣の自立に向けた取組が子どもの育ちにつながっていることがうかがえる。	発達年齢に応じた環境の設え方や援助を続ける。生活習慣の自立に向けて、今後も保護者との連携を続けていく。安心安全に遊べる幼稚園の体制や援助について考える。	⇒	生活習慣の自立については、保護者もできるようになることを望んでいる。入園を機に身についていくよう援助をしてほしい。	保護者に子どもの様子を伝えながら、生活習慣を身に付けられるよう進めてほしい。
	園庭・広場の活用	運動遊びを通して調整力を養う	個々の動きと心の動き 日々の保育の振り返り	体力がつき、年中・年長は縄跳び等も挑戦している。						
4 独自の取組	地域や校種間連携	特養訪問 小・中・地域との連携	地域や校種間連携は、子どもの育ちにつながっているか	保幼小中連携では、B評価が減りA評価が増えている。	⇒	地域や校種間連携の積み上げは、子どもの姿に表れた。特に保幼小中連携が大事であることについては保護者の意識が高まった。	継続が大切である。校種間連携や食育については、年長児が中心であるが、他学年の子ども達は、年長児の姿をよく見ており、期待感をもって進級する。教育計画の中にしっかりと位置づけ、衛生面に十分配慮しながら、より計画を密にして取組む。	⇒	地域・小・中の連携についても良い評価をもらっているのは、学校運営協議会の取組が保護者に支持されている。今年度は、西陣中央小学校と連携がスタートしたことは大きな第一歩である。今後も上京中学校、新町・西陣中央小学校との連携が、教育課程の中に位置付けられたことは大きい。	運営協議会の取組の一つとして、小中連携を重視している。西陣中央小学校とも連携がスタートしたことは大きな第一歩である。今後も上京中学校、新町・西陣中央小学校との連携を継続できるよう力を注ぎたい。
	子育て支援	教育相談 預かり保育	教育相談や預かり保育は子育ての支援になっているか	幼稚園の取組を評価してもらっている。預かり保育では、やや低い評価がある。		栽培活動や、食育の充実も同様である。				
	食育の充実	西賀茂農園の取組 一人一鉢 パンランチ	栽培活動(西賀茂農園を含む)は食育につながっているか	ほぼAB評価であり高い評価をもらっている。						

## 4 総括・次年度の課題

幼稚園と子どもの育ちに応じた環境の設えなど、教師が日々の生活を大切にしてきたことが後半以降の子どもの育ちにつながった。園独自の取組は、学校運営協議会として子どもの育ちを支える大きな取組の部分でもある。子どもたちは園内外の身近な環境だけでなく、小・中学校、西賀茂農園、地域の諸行事の環境の中で心を動かし、人の出会いの中で他の人の思いを感じられる子どもに育ちつつある。年長児は感謝の気持ちが芽生えている。今後もみつば幼稚園ならではの教育を続けていきたい。次年度は20周年を迎えるので、教職員皆で地域とつながる良さや、学校運営協議会と同じ思いで取組む中で、みつば幼稚園の将来についても話し込んでいきたい。